

SBNスーパーゼミナール

社会的企業家と考える次の日本のかたち、被災地「陸前高田」に学ぶ地域再生への道

「生き方・働き方を変える大学」受講者募集

(社)ソーシャルビジネス・ネットワーク+なつかしい未来創造(株) 共同事業

募集要項

「生き方・働き方を変える大学」で思考することは…

3.11 から私は何を学んだのか

3.11 から私は何が変わったのだろうか…

3.11 から疑問に感じたことは沢山あるが、

そもそも、3.11 以前からその疑問はあったのではないだろうか…

3.11 から始める、過去・現在・未来の話。大きな話から、個人の話まで。

そして、自分の立っている場所から始める、未来を良くするための一歩。

はじめに

人材育成事業「生き方・働き方を変える大学」は、社会の課題をビジネスの手法によって解決することを推進している経済団体、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク <http://socialbusiness-net.com/> (以下、SBN。別添資料あり)と、震災後、陸前高田の復興まちづくり会社として設立されたなつかしい未来創造(株) <http://www.natsu-mi.jp/> (別添資料あり)とが協働し、社会の変革を起こす人材育成と、変革を推進する学びあうコミュニティを、育み増幅していくことを目的として実施するものです。

今回のプログラムは、本格的に事業をスタートさせるための準備プログラムとなっており、受講者のみなさまには受講費(交通・宿泊費、食事等実費負担のみ自己負担)を頂かないかたちで実施致します。(プログラムに対するご意見を頂くなどのご協力をお願いする場合があります)

■社会的企業家と復興に邁進する企業家との少人数制のゼミ、2 拠点で学ぶ5カ月間

地域や社会の課題の構造を深く理解し、明日からの生き方、働き方を変えていくための講座です。先行きが見えない社会の中で、一緒に学ぶ仲間をつくり、具体的な課題解決のプロセスを踏みながら、最終的に明日への自分の行動につなげていく場です。

講師は、先進分野を切り開いてきた、不屈の精神をもつソーシャルビジネス(以下、SB)のトップたち。教材は、「被災地」です。SBの先達の言葉や被災地の課題解決を考え抜くことを通じて、自分の生きる道、働き方を切り開いていくための大学です。

■ 学びのプロセスと目指す方向

「心」から「志」へ、そして「共感」へ・・・想いを明確にし、社会化し、仲間をつくる

SBの先達の現代社会に対する深い知識・知恵を吸収し、仲間との対話・議論を重ね、現場を歩き、現場の空気を吸い、五感を駆使し、今大事にしなければならない価値とは何かを考えます。また、このプロセスを通じ、共感を寄せ合う仲間の存在の大切さを体感します。

協働すること、多様性の尊重を通じての学び

個々の競争ではなく、他者との協働を通じて、実社会の課題の解決に取り組みます。多様な価値観、特徴を認めあいながら、「編集する力」を発揮し、「現場にあるものだけ(いる人だけ)で勝負する」という環境の中で、知恵を出し合っていきます。課題の解決案を最終的にSBの先達の前で発表しますが、多くの共感を得られるよう、チームのパフォーマンスを上げるための努力を個々にやり遂げます。

■ 構成(一部変更の可能性がありますが)

本プログラムは、以下の4つで構成されます。

<p>1. 座学 (開校式含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・固定概念をこわす ・「新しい価値」に気づく ・社会の構造を理解する 	<p>東京ゼミ 10月5日、6日 2日間 於:SBN事務所 港区南青山 1-20-15 -3F</p>	<p>4. メンタリング ・東京と陸前高田にメンターがおりますので、随時相談を受け付けます。</p>
<p>2. フィールドワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月被災地・陸前高田の課題を見つける／何に取り組むかを考える ・11月・課題に絞ってリサーチ／ビジネスプランをつくる ・1月 共有・議論・発表 	<p>陸前高田ゼミ 10月、11月、1月 2泊3日×3回 ※フィールドワークは、陸前高田市内各所 現地拠点: 於:なつかしい未来創造岩手県陸前高田市竹駒町字相川 74-1</p>	<p>・陸前高田での3回の道場以外に、自発的なフィールドワークに対してサポートします。</p>
<p>3. プレゼンテーション (修了式)</p>	<p>・2月SBN理事メンバーの前でのプレゼンテーション。共有と評価</p>	<p>東京ゼミ 2月1回 日程調整中</p>	

※修了した受講者(アウトプットは事業プランとプレゼンテーション)には修了証を授与。

1. 座学【東京ゼミ】ポスト3.11～日本と私の道を考える議論の場

社会の課題を先進的にビジネスの手法で解決してきた社会企業家たちが、ポスト311をいかに考え、これからの社会をいかに変えていくべきかを講義します。その後、それぞれの講義を受けて、SBN理事のメンバーも交じったワークショップを行います。

●学び考えるのは、次の3つです。

- ・「縮む日本社会」を認識し、大切にすべき価値とは何かを考える
- ・「縮む日本社会」の企業・事業がどのように変わっていくべきなのかを議論する
- ・多様性の価値を知る

●形態は、講義＋ワークショップです。

ファシリテーター：町野弘明((社)ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事)

- ① 日本の近現代史から未来を語る(仮題)…150分

講師：熊野英介

(アマタホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 社長／SBN副代表理事)

◎ワークショップ

- ② 日本人の働き方はどう変わるのか(仮題)…150分

講師：海津 歩(株式会社スワン 代表取締役社長／SBN常務理事)

◎ワークショップ

- ③ 日本のものづくりの未来(仮題)…150分

講師：池内計司(池内タオル株式会社 代表取締役社長／SBN理事)

◎ワークショップ

2. 【陸前高田ゼミ】フィールドワーク

SBNがソーシャルビジネスによる復興まちづくりを推進している被災地「陸前高田」において、課題発見のリーサーチ活動や課題解決のための実現可能なプランづくりを、現地で復興を目指している事業者の方々との議論を交えて行います。

何故、被災地で学ぶのか？——日本の課題が集中しているのが、今の被災地です。被災地の課題を見つめ、深掘していくと、日本全体の課題が見えてきます。マスメディアの言葉からでは伝わらない現実を知り、深い理解が得られます。※全体プログラム概要参照ください。

●形態は、講義＋フィールドワークです。

講師：田村 満(株式会社高田自動車学校 代表取締役社長)

なつかしい未来創造(株) 代表取締役社長)

河野通洋(株式会社八木澤商店 代表取締役社長)

なつかしい未来創造(株) 専務取締役)

長谷川順一(株式会社長谷川建設 代表取締役社長)

なつかしい未来創造(株) 取締役)

フィールドワーク先例：陸前高田市、陸前高田市社会福祉協議会、商工会、岩手県中小企業家同友会気仙支部、陸前高田・今泉地区 明日へのまちづくり協議会、長洞元気村、気仙地域の各事業者、他。

3.【東京ゼミ】プレゼンテーション

コースの最後には、SBN理事・評議員の前で、プレゼンテーションを行います。理事、評議員とのディスカッション、アドバイス、評価の時間をもちます。

全体スケジュール

	目的	内容	講師	日程	会場
座学(2日間)開校式	<ul style="list-style-type: none"> 固定概念をこわす 「新しい価値」に気づく 社会の構造を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 目的・概要説明 日本の近現代史を学ぶ 新しい働き方を考える これから大切にしていこう価値とは何かを考える。 	熊野英介 SBN副代表理事 海津 歩 SBN常務理事 池内計司 SBN理事	■1日目 10月5日(土) 午後～ ■2日目 10月6日(日) 9:30～	SBN事務所
フィールドワーク(2泊3日)×3	<ul style="list-style-type: none"> 陸前高田の課題を発見する 取り組む内容を考える 解決モデルを考える チームでプランを創り上げる 集団のパフォーマンスを上げる技術を学ぶ 	[第1回] ◎陸前高田を知る。 ◎取り組むテーマを決める。 ・被災地を歩く、復興の進捗を認識する。 ・現地の人のお話を聞く -仮設住宅、行政 -第一次産業、商店街、他 -福祉・復興関連のNPO、団体 ・取り組むテーマを決めて発表する	田村 満 なつかしい未来創造(株) 代表取締役社長 河野通洋 なつかしい未来創造(株) 専務取締役 長谷川順一 なつかしい未来創造(株) 取締役	10月12日(土) 10月13日(日) 10月14日(月)	

		<テーマ(想定)> 福祉・環境エネルギー・第6次産業 ・夜塾(学び合う時間)			
		[第2回] ◎テーマを掘り下げて仮説をたてる。 ・2~3人で活動。学びあい、それぞれ助け合いながら、活動する。 ・プランをつくる ・夜塾(学びあう時間)		11月22日(金) 11月23日(土) 11月24日(日)	陸前高田 なつかしい未来創造(株) 宿泊:
		[第3回] ◎実行プランを完成させる ・プラン内容を最終確認 ・プレゼンし地元からのフィードバックを得る ・夜塾(学び合う時間)		1月11日(土) 1月12日(日) 1月13日(月)	モビリア 他
プレゼンテーション	・プレゼンテーションの技術を学ぶ	・プレゼンテーション ・理事からのフィードバック ・修了式	熊野英介 海津 歩 池内計司 他 SBN 理事数名	2月土日で調整中(1日) 13時30分~	東京

4. メンタリング

メンター:服部直子 なつかしい未来創造(株) 取締役/SBN フェロー

中野里美 なつかしい未来創造(株) スタッフ

・東京と陸前高田にメンターがおりますので、随時相談を受け付けます。

・陸前高田での3回の道場以外に、自発的なフィールドワークに対してサポートします。

■講師紹介



熊野英介

1956年兵庫県出身。アマタホールディングス(株)代表取締役会長兼社長。「持続可能社会の実現」を掲げ、他社に先駆け再資源化事業を開始。総合環境ソリューション企業として事業領域を拡大している。



海津 歩

1960年東京都出身。85年ヤマト運輸(株)に入社。各地の営業所長、支店長を歴任。2005年「スワンベーカリー」を運営する(株)スワンを、引き継ぎ、代表取締役社長に就任。「障がい者の自立」を目的とし、障がい者を雇用したスワンベーカリーを全国展開している。



池内計司

1949年生まれ。71年松下電気産業(現・パナソニック(株))入社。83年、池内タオル(株)入社、代表取締役に就任。環境に配慮した質の高いタオルを製造し、国内のみならず世界中で高い評価を受けている。



田村 満

1947年生まれ。71年(株)高田自動車学校に入社。2003年代表取締役社長就任。自動車学校を運営するかたわら、まちづくりに積極的に関わり、岩手県中小企業家同友会代表理事も務める。2011年復興まちづくり会社であるなつかしい未来創造(株)を設立、代表取締役社長に就任。



河野通洋

1973年生まれ。1807年創業の醸造蔵・(株)八木澤商店の九代目社長であり、食の安全性、地域の活性化や地場産業の育成にも力を注いでいる。東日本大震災により、社屋、製造工場、自宅が全壊、流失。岩手県内陸部に拠点を移し、営業を再開している。なつかしい未来創造(株)専務取締役。



長谷川順一

1980年生まれ。(株)長谷川建設代表取締役社長。震災により社屋を流失するが、再開し、震災の復興に力を尽くす。現在は自然エネルギーの新事業にも取り組む。なつかしい未来創造(株)取締役。



町野弘明

1962年生まれ。流通企業、社会情報系シンクタンクを経て、2001年、日本初のソーシャルマーケティング専門のコンサルティング・ファームを創業。2010年、(社)ソーシャルビジネス・ネットワークを設立、専務理事・事務局長に就任。なつかしい未来創造(株)取締役副社長。

■募集概要

- 主 催 : 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク
<http://socialbusiness-net.com/>
東京都港区南青山1-20-15 ROCK1st 3F
なつかしい未来創造株式会社 <http://www.natsu-mi.jp/>
岩手県陸前高田市竹駒町字相川74-1
- 募集人数 : 15人
- 対 象 : 働き方、仕事、ビジネスを通じて、自分の生き方を考えたい方
ソーシャルビジネスに取り組みたい方
被災地での支援活動を行いたい方
18歳以上
- 学 費 : 無料
※但し、陸前高田、及び東京会場までの交通・宿泊費、食費等滞在に係る費用は自費負担。
※参考／東京⇄陸前高田 2泊3日(往復新幹線代、2泊分宿泊費、食費除く)＝
3回実施予定:37,780円／2泊3日×3回 =113,340円
- 申込方法 : 専用フォーマットの申込書・作文(志望動機 1000字以内)をご提出ください。メールでの受付を行います。
送付先/info@socialbusiness-net.com
- 応募〆切 : 平成25年9月10日(火)～**平成25年9月25日(水)17時まで**
- 選考方法 : 一次選考／**申込書・作文**
二次選考／**面談(9月27日(金)～29日(日)都内にて)**
遠方の方は、**ネットによる面談**も可能です。
9月30日(月)参加者確定、事務局より御連絡差し上げます。
※ご提出頂いた履歴書、志望動機の作文はご返却致しませんことをご了承ください。
- 問合せ先 : 03-6820-6300「生き方・働き方を変える大学」 担当:服部

応募申込書

応募用紙：「生き方・働き方を変える大学」受講者用

年 月 日現在

ふりがな		氏名		所属：	
生年月日	昭和・平成 年 月 日生（満 歳）	性別	男 ・ 女	血液型	A / B / O / AB / 不明 (RH+ /RH-)
携帯電話番号		E-MAIL			
ふりがな				電話（ ）	
現住所〒				—	
				FAX（ ）	
				—	
ふりがな				電話（ ）	
連絡先〒				—	
(現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)				FAX（ ）	
				—	
備考：					

これまでに、国内外含め、被災地での活動経験がある方は、どこでどのような活動をしたかご記入ください

その他社会的な活動歴

特筆事項

※個人情報の取り扱いについて：当用紙に記載された個人情報は、本人の許可なく「生き方・働き方を変える大学」に関する業務以外に使用いたしません。

応募用紙：「生き方・働き方を変える大学」受講者用 作文用紙

作文「志望動機」

※このゼミに何を期待されているのか、現在生き方、働き方で感じていること、
あるいは、3.11 で何を感じ、考えてこられたか、など、自由にお書きください。

※1000 字以内で、下記を含み、記載ください。

氏名 _____

(下記数字：50 字 × 20 行 = 1000 字)

○○○○5○○○○10○○○○15○○○○20○○○○25○○○○30○○○○35○○○○40○○○○45○○○○50

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26

被災地・陸前高田市について



◎災害の状況

2011年3月11日の震災が起こる以前から、陸前高田では他の地方都市と同じく、高齢化と人口減少が進んでいました。震災前の住民人口は、24,246人。震災で亡くなった方は、行方不明者も入れると2000人近くにもものぼり、中心市街地や海沿いの集落は壊滅しました。

江戸時代には今泉街道・気仙街道の交わる地域として発展したものの、近年は隣接する大船渡市・気仙沼市のベッドタウン的な性格を持ち合わせていた陸前高田からは、震災後あらためて仕事を求めて内陸部に移る働き盛り世帯も少なからず、人材の流出がつづいています。現在の住民は、公表されている人口20,604(h25.8月現在)よりも、もっと少ないとされています。

◎高田松原と奇跡の一本松

白砂青松の高田松原は、市民はもとより県内外の来訪者から四季を通して愛される場所でした。約350年前から先人たちが植林を行い、市民の手で守り育ててきた高田松原。その美しさを多くの詩人が詠み、昭和15年には国の名勝に、昭和39年には陸中海岸国立公園に指定されました。夏には海水浴客でにぎわい、松に囲まれた遊歩道は市民の憩いの場所でした。また、多くの動物や希少植物が存在し、多様な生態系が育まれていました。高田松原は、まさに陸前高田市の象徴とも言える存在でした。

この度の震災で、過去の度重なる津波から高田のまちを守ってきた、約7万本と言われる高田松原もほとんどが流されてしまいましたが、その中で唯一耐え残ったのが「奇跡の一本松」です。津波に耐えて奇跡的に残った一本松でしたが、海水により深刻なダメージを受け、平成24年5月に枯死が確認されました。しかし、震災直後から、市民のみならず全世界の人々に復興のシンボルとして親しまれてきた一本松を、今後も後世に受け継いでいくために、陸前高田市ではモニュメントとして保存整備することといたしました。それが「奇跡の一本松保存プロジェクト」です。

◎陸前高田の人たち(一部紹介)

* 元気な事業者のみなさん、その1



陸前高田産のぶどうの皮を使った、石鹼を開発・販売。
手触りがぷるぷるして、人にも優しい石鹼で好評発売中。
頑張っている若者の一人。

小物・雑貨店「Laugh (ラフ)」

代表者：菅野 恵さん

陸前高田市出身。高田高校卒業後東京に上京し、10年間、東京に在住。主にアパレル関係で働いていたが、震災を機にUターンを決意。h 24.4月に帰郷、10日間後に小物・雑貨店 Laugh をオープン。

<http://mirai-shotengai.jp/shop/laugh.html>



* 元気な事業者のみなさん、その2



お客様に忘れかけた地域の食文化を提供することが理念。地域住民から信頼され必要とされる店作りに励み、地場産業との関わりを深め産業復興へ積極的に取り組む。また、一人でも多くの人達が明るく健康に暮らせる地域づくりを目指す。

有限会社 橋勝商店 惣菜店「和・笑・輪」

代表者：橋詰真司社長 (右)、橋詰専務 (左)

陸前高田市気仙町に生まれ、有限会社橋勝商店を承継し、代表取締役就く。

震災直後、1 カ月後には「けせん朝市」を復活させた、実行委員長。元々の卸業を承継しつつ、新しく惣菜店「和・笑・輪」を開店。素敵な若夫婦ともに地元出身。



* 元気な事業者のみなさん、その3 長洞元気村「なでしこ工房プロジェクト」



代表者：戸羽 貢さん 事務局長：村上誠二さん

(左) 村のなでしこさんたち

震災で失った女性・高齢者の生き甲斐となる「好齢ビジネス」を復興開発し、子どもから高齢者まで生き活きとした笑顔の集まる長洞集落おこしを目指します。

<http://www.nagahoragenki.jp/>

- ・お菓子「長洞伝統ゆべし」、水産加工品「スルメの一夜干し・高級天然マツモ(乾物)等の開発・生産・販売。
- ・体験型観光「漁業体験(ワカメの芯抜き体験・刺し網・かご漁など)
- ・農業体験(干し柿づくり・田植え稲刈り体験・畑作体験など)」の グリーンツーリズム・ブルーツーリズム受入れ
- ・被災体験の「語り部」育成と被災地ガイドの実施
- ・震災を乗り越えた長洞元気村の地域コミュニティの結束力を 学ぶことで、自らの地域のコミュニティを見直し「防災減災のま ちづくり」への意欲と取り組み促すこととなる。
- ・「好齢ビジネス」による収入確保、生き甲斐の創出による地域の 活性化・起業意欲の喚起につながる。



* 元気な事業者のみなさん、その4

地元のりんごでりんごビール製造・販売

北海道からIターンして起業した若者 tzlog(ティジログ)「リンゴリラ」



代表：谷沿裕紀さん 北海道幕別町出身。2012.3 月に『瓦 Re:keyholder』参加、高田に移住。アルバイトなどをしながら生計を立て、『瓦 Re:keyholder』の活動に参加。そんな中、札幌での飲食の経験からりんごを使ってお酒を造ること思いつく。今も、農家さんと奮闘中。H25.2 tzlog を開業(個人事業)りんごエール販売中。

◎なつかしい未来創造(株) について～設立経緯 <http://www.natsu-mi.jp/>

「なつかしい未来創造」は陸前高田の経営者を中心に、東京のメンバーを交えて、岩手県中小企業家同友会や一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークの協力を得ながら歩みを進める “復興まちづくり会社” です。地域の資源を活かしながら、社会の今日的課題に応え、将来的に約 500 名の雇用を創出。複数の事業を育成し、むこう 10 年間で発展的に解散することを目指しています。陸前高田に軸足をおいて、仕事をつくる、出会いを増やす、良い社会資本を残す、ための諸活動を、積極的に実践しています。

「なつかしい未来」の創造は、震災以前から岩手県中小企業家同友会気仙支部の経営者たちの勉強会の中で育まれてきたコンセプトです。

<今までの実績>

- 2013.2 「ソーシャルビジネス復興フォーラム in 陸前高田」の開催
- 2012.9～2013.3 「東日本大震災アーカイブ基盤構築事業」気仙地域を担当
- 2012.9～ 「陸前高田・今泉地区 明日へのまちづくり協議会」設立支援、事務局運営
- 2012.秋 陸前高田の授産施設「あすなるホーム」と「スワンベーカーリー」による商品開発・販売支援
- 2012.8 夏休み交流企画「かわいい子には旅をさせよ」(陸前高田・3泊4日)の実施
- 2012.7～2013.3 インターンシップ事業「ふるさとには負けない！ 東北仕事復興リーグ」支援
- 2012.7～9 市の若手職員と地域事業者による「未来創造塾」の開催・運営
- 2012.7 イベント「東北復興ギャザリング in 陸前高田」の開催
- 2012.5～2013.3 内閣府 復興事業「被災地の未来をつくるビジネスプラン募集」の実施
- 2012.4～2013.3 総務省「緑の分権改革」実証調査プロジェクト受託
地元材(気仙杉)の間伐材を利用した商品づくりと流通開発の試み
- 2012.2～ テレワークによる仕事創出のコーディネート、マネジメント
- 2012.2 「ソーシャルビジネス経営塾 in 陸前高田」開催支援
- 2012.1～2 ワークショップ “「なつかしい未来」ってどんなものだろう？” 開催
- 2012.1 イベント「東北復興緊急ギャザリング ～ソーシャルビジネスのちからで日本(東北)から未来は変わる～」の開催
- 2011.11 竹駒保育園の建設費獲得支援
- 2011.11～12 森林資源の活用に向けた調査・検討
- 2011.10～11 「陸前高田未来商店街」の立ち上げ協力
- 2011.9.23 なつかしい未来創造株式会社、生命環境産業振興協議会 設立
- 2011.7～9 復興構想会議「陸前高田千年みらい創造会議」の運営
- 2011.6～9 被災地インターンシップ事業「共に挑む、明日をつくるトライアル in 東北」の実施